

職リハ学会通信

No.175 2023年 9月発行

目次

第50回かながわ大会のご報告	2P
運営理事会報告	3P
委員会報告	4P
ブロック活動報告	5P
会員投稿・報告	5P
事務局からのお知らせ	6P

第 50 回かながわ大会のご報告

職リハを取り巻く大きな環境変化と懐かしさを感じる対面形式の大会

【大会の概要】

2023年8月25日（金）・26日（土）に神奈川県立保健福祉大学で開催された『日本職業リハビリテーション学会第50回かながわ大会』が無事終了したことを報告いたします。過去、たった3年間対面形式の大会が開催されなかっただけなのに、懐かしさを感じる大会でした。

大会参加者は、事前申込ならびに当日参加合計274人です。今年に入り、様々な対面形式の研修会や学会が再開されるようになりました。しかし、新型コロナウイルス感染が消滅したわけでは無く、研修会や学会の参加者数が「戻らない」という話しをよく耳にしました。このような状況下でも、前年度のオンライン開催の参加数とほぼ同数の参加者が、神奈川県横須賀市に来ていただきました。本当にありがとうございます。

大会プログラムとしては、口頭発表22件、ポスター発表16件、自主ワークショップ10件の申込みがあり、その他大会企画シンポジウム2件、大会企画市民参加オープン講座、学会国際委員会企画シンポジウム、学会政策委員会企画シンポジウムが開催されました。さらに、大会開会式の前に、学会研修委員会企画研修基礎講座が2件、学会総会の後には情報交換会も開催しました。特に、情報交換会は100人規模の開催となり、会場のあちこちで、名刺交換や近況報告がはじまり、職リハ研究や実践、昨今の障害者雇用等に関する社会的問題について、当初の予定時間を超過して話し合われていました。

【大会テーマと新しい施策への対応】

今大会のテーマは『能力を発揮して活躍する社会の構築に向けて』です。大会企画シンポジウムⅠ・Ⅱでは、我が国の最近の障害者雇用・就労支援の政策の方針や具体的な施策、その背景となる現状認識、職業リハビリテーションのさらなる発展に向けての人材養成のあり方など、様々な立場から報告がありました。3年後には法定雇用率が段階的に0.4%引き上げられます。この急激な上昇傾向は、まだ続くはずで、除外率引き下げも含め、これまで経験しない障害者雇用の「量的拡大」が求められる時代です。現状の取組みの延長とは異なる

、構造的な大きな変化が求められる時代になりそうです。同時に、障害者の個々の状況に応じた職業準備、就労アセスメント、職業紹介・マッチング、定着支援、さらには地域生活全般の相談や支援とネットワーク作りも、この「量的拡大」への対応が求められます。

一方、働く障害者に対する尊厳、公平性の高い処遇、特性に応じた配慮といった、働くことへの「質の向上」も欠かせません。この「質の向上」無くして、一人ひとりの雇用の継続は実現しません。そして、職業リハビリテーションが目指すものは、まさにこの「質の向上」の議論です。質の向上には、障害福祉サービス等のいわゆる福祉的就労の分野における生産性ならびに工賃向上、仕事へのアクセス、さらには労働者性の保証など、障害者雇用より広範囲な議論が必要です。

2つの大会企画シンポジウムで合計8人の登壇者が、それぞれの立場からの現状認識と課題を丁寧に整理して発表していただきました。職業リハビリテーションの視点から更に調査・議論が必要な内容がたくさん提示されました。また、オープン講座において松為先生から、改めて働くことの意味を、新しいキャリア理論やカタカナで表現されることが増えたウェルビーイングの話題を交えながら、職業リハビリテーションの体系としてどのように位置づけるかをまとめていただきました。対面形式の懐かしさを思い出すだけでなく、職業リハビリテーション分野における今後数年間の大きな変化を学術的にどのように考察するかを考える良い機会になったと思います。そして、次年度の松江大会にも引き継がれるものと期待しています。

【最後に】

最後に、大会準備の裏方として多大なご協力をいただいた、学生ならびに社会人ボランティアの皆様、情報交換会等の設営でご尽力いただいた「地域生活サポートまいんど」の皆様、快く会場・設備の使用ならびにサポートをいただいた神奈川県立保健福祉大学、そして1年前から企画・準備に奔走していただいた実行委員会の皆様に感謝いたします。

（第50回かながわ大会 大会長 志賀利一）

2023 年度 第2回運営理事会 報告

1. 日 時：8月24日（木）15：00～17：00
2. 場 所：神奈川県立保健福祉大学 横須賀キャンパス
3. 出席者：
運営理事：朝日、小川、大川、柴田、眞保、清野、武澤、八重田、矢野川、山口、行實、
若林、野崎
ブロック理事：久保田、石原、青山
監事：倉知、藤原
欠席者：前原、星明
事務局：木原

1. 議事

1) 会務報告

- ・会員数は、正会員 656 名、賛助会員 5 団体。
- ・2023 年 5 月 18 日から 8 月 16 日までの入会希望者、16 名について承認を得た。
- ・2022 度末の退会希望者 37 名、除名者 13 名について承認を得た。

2) 審議・報告事項

○総務・企画委員会

- ・第 51 回大会を島根県での開催する方針で調整中。大会長は林輝男 氏（社会医療法人清和会理事長）、実行委員長は青山貴彦 氏（中国ブロック理事、社会福祉法人桑友理事長）へお願いする。2022 年度活動報告（案）を確認した。
- ・これまで運営理事会で検討してきた学会のあり方について、ブロック代表理事へ 2023 年 6 月 28 日にオンライン会議にて説明を行った。ブロック理事に対しては、ブロック代表理事を通して説明して頂くようお願いをした。
- ・第 50 回かながわ大会は対面での大会開催となったため、古い学会誌について、会場にて無料配布を行う。

○学会誌編集委員会

- ・37 巻 2 号の内容を報告、38 巻 1 号の内容を検討した。「職業リハビリテーションの理念」をテーマに検討中。2008 年に「職業リハビリテーションの理念」について発行しているが、制度などが変化しているため、改めて理念を考える機会とした。
- ・今回、大会の期間を利用し、対面での会議開

催をする機会を設けた。議論が十分でない部分は、オンラインでの会議を開催する予定。

- ・第 50 回かながわ大会基礎研修において、「初めての研究発表：事例研究を中心に」をテーマに講師対応をする。

○広報委員会

- ・職リハ学会通信 174 号（6 月号）を発刊した。
- ・ホームページは、役員名簿、名誉会員名簿の更新をした。
- ・2022 年度に完成した学会案内チラシについて、活用方法を検討している。
- ・メーリングリストの内容を点検、更新したことを報告した。
- ・ICT サポートについては、引き続き大会運営などに関わる ICT の情報集約を行う。

○研究・倫理委員会

- ・今年度においても、2023 年度研究スタートアップ助成事業について、応募を介する予定である。
- ・第 50 回かながわ大会「学会大会奨励賞」の審査及び表彰について実施する。
- ・投稿論文の倫理チェックについて、2023 年 4 月より対応をした。

○政策委員会

- ・JD 総会（2023 年 5 月 26 日（金））に出席をした。
- ・日本社会福祉系学会連合総会（2023 年 6 月 5 日（月））に出席をした。
- ・政策委員会主催セミナー「高等教育機関に

おけるジョブコーチ養成の可能性を考えるセミナー（オンライン）を2023年5月20日（土）に開催した。

・第50回かながわ大会にて政策委員会主催ワークショップ「高等教育機関におけるジョブコーチの人材養成～ニーズと可能性を探る～」を開催する。

・高等教育機関における「職場適応援助者」の養成について、社会福祉士、精神保健福祉士、作業療法士、公認心理師の4つの国家資格養成と連携し、厚労省と協議を継続する。

○国際委員会

・第50回かながわ大会にて国際委員会主催ワークショップ「インクルーシブ教育からインクルーシブな職場に関する国際動向」を開催

する。

・第50回かながわ大会への外国人参加者への対応をした。

○研修委員会

・第50回かながわ大会にて基礎研修講座（「職業リハビリテーションの基礎-本人の希望・ニーズを踏まえた就労支援のためのアセスメントシート」「初めての研究発表・事例研究を中心に」）を開催する。

2. その他

1) 第3回運営理事会について

日時：2023年11月25日（土）13:00～16:00

方法：オンライン会議

委員会報告

○総務・企画委員会

2022年度に総務・企画委員会において、「学会のあり方」について様々な内容を検討し、運営理事会において審議を重ねて参りました。それを踏まえ、2023年8月25日に開催された2022年度会員総会において、2023年度活動計画の内容として、本委員会から「学会のあり方」について、これまで議論をしてきた内容や提案内容を説明いたしました。詳細につきましては、学会通信前号（No.174 2023年6月号）において、朝日会長が報告をした内容をご参照ください。概要としましては、「学会名

称」「ブロック活動のあり方」「実践者が集う学会のあり方」「海外会員の取り扱い」について、説明や提案を行いました。特に、「学会名称」の変更については、問題提起とともに運営理事会案を示しましたが、これについては不承認となりました。同時に、様々な貴重なご意見をいただきましたので、改めて本委員会や運営理事会において検討を重ねて参ります。今後も、本学会がどうあるべきか、様々なご意見をいただきたいと思いますとありがたく存じます。

（委員長 野崎智仁）

○研究・倫理委員会

日本職業リハビリテーション学会では、若手会員の研究・調査に対する関心を高めていくことを目的として、「研究スタートアップ助成事業」を実施しています。今年度も、2023年12月末を締切りとして募集を行っていきます（助成期間は、2024年4月からの1年間）。この助成事業では、調査・研究に対して上限10万円の助成を行っています。

今年度からは、応募対象者の範囲を、従来の「①年齢35歳以下」に加えて、「②実践経験5年未満」、「③大学院生・修了後5年未満」も

加える形で広げています。また、助成者に対して義務づけられている成果報告のための日本職業リハビリテーション学会での大会発表のための補助費として、助成期間の翌年（2025年度）に上限5万円の助成も開始しました。

助成決定には審査もあり、すべての人に助成できる訳ではありませんが、多くの方からの応募をお待ちしています。応募に関連する規定及び様式は学会ホームページに掲載されています。詳細はそちらをご覧ください。

（委員長 前原和明）

ブロック活動報告

○近畿ブロック

6月16日（金）の午後、近畿ブロック主催の研修会を開催しました。当日は、「若手支援者の実践からキャリアを考える～数年後の私を想像する～」をテーマに、経験年数5年ほどになられる支援者3名からの実践報告をお願いし、その後は登壇者とディスカッション、参加者同士のグループワークと盛りだくさんな内容で開催いたしました。

3名からの実践報告では、日々の就労支援で感じることから担当ケースの事例紹介などを行っていただき、3つの実践は丁寧で質の高い支援であり、大変内容の濃い実践報告でもありました。

また、登壇者3名とのディスカッションを行った後には参加者を経験年数でグルーピングさせていただき、参加者同士の交流も含め

たグループワークを行ないました。グループワークでは、テーマとしていた自身のキャリアに対することから日々の現場で感じることを意見交換されるなど、参加者同士の交流もたいへん盛り上がっていました。

近畿ブロックでは、年1回のペースでこのような研修会を開催しています。近畿ブロックと言いながらも、大阪での開催が多いことから今回は神戸市内での開催としてみました。可能な範囲で近畿の様々な地域で開催したり、Webを活用することで参加のしやすさにも工夫をしていきたいと思っています。

引き続き、研究と実践の両方を学べる場となるよう、近畿ブロック主催の研修会を継続して開催していきたいと思っています。

（近畿ブロック 星明聡志）

会員投稿・報告

日本職業リハビリテーション学会の第50回かながわ大会の参加を終えて

記念すべき第50回大会で発表させていただきありがとうございました。日々は就労移行支援事業所でサービス管理責任者を担当しています。今回の大会では、就労アセスメントについて発表しましたが、自分自身の考えや方向性等を整理していく良い機会となりました。今後新設される就労選択支援事業を見据え、地元の大学の先生や自立支援協議会就労部会メンバー等様々な関係機関の方にご協力頂きながら、アセスメントツールや支援システムの構築を模索していきたいと考えております。3年ぶりに会場の皆様と対面で意見交換でき、懇親会でも特例子会社の方、様々な課題を研

究している機関の方等とも交流させていただいた中で、様々な視点からのご意見や課題の捉え方、他の地域でも同じような地域課題があること等が分かりました。改めて、職業リハビリテーションの発展には産学官多方面からのアプローチや連携により取り組んでいくことが重要であると感じ、その土台を作った学会に感謝すると共に、今後も参加させて頂きたいと思いました。

六車 浩

（かがわ総合リハビリテーションセンター）

事務局からのお知らせ

新規入会者（2023.5.18～2023.8.16）

◆ 北海道ブロック 田村 俊輔、米地 真奈美

関東ブロック 板垣 衿花、香川 朋美、北原 瑛、櫻井 卓郎、佐藤 公美子、長沢 伸孝、
中山 奈緒子、西野 由希子、信重 綾、松宮 千士里、宮野 雄太

◆ 中部ブロック 田代 政裕

◆ 近畿ブロック 越智 信成

◆ 四国ブロック 六車 浩

事務連絡

- ◆ 「職業リハビリテーション」第37巻1号がまもなく発刊されます。送付先住所に変更がある方はお早めに事務局まで変更届をご提出ください。
- ◆ 転居先がわからず学会からの郵便物が届かない方がいらっしゃいます。お手元に郵送物が届いていない方は事務局までお知らせください。

正会員：656人、賛助会員：5団体（2023年8月16日現在）

編集後記

2023年度より、広報委員会の副委員長を務めさせていただいております。はじめての役員活動で不慣れな点は多々ありますが、学会通信やホームページなど、学会活動が広く認知されるように頑張っております。

学会通信では、会員投稿の充実を目指しております。会員の皆様の投稿をお待ちしておりますので、引き続き、なにとぞよろしくお願いいたします。

（矢野川祥典）

【日本職業リハビリテーション学会通信】 年4回発行

編集担当者：星明聡志、矢野川祥典、行實志都子、山口明乙香

★投稿、提案、情報提供を歓迎いたします。下記のメールアドレスまでお問合せ下さい。

メール：voc-kouhou@vocreha.org

発行所：事務局 〒325-0055 栃木県那須塩原市宮町2-14

特定非営利活動法人那須フロンティア気付

日本職業リハビリテーション学会事務局

shokuriha_jimukyoku@vocreha.org

郵便振替口座番号：00100-2-544296

加入者：日本職業リハビリテーション学会

発行人：朝日雅也（日本職業リハビリテーション学会会長）

編集人：星明聡志